

- おすすめコース**
- A 京阪私市駅～緑の文化園～生駒ケーブル生駒山上駅コース (約18.5km/約7時間40分)
  - B JR星田駅～緑の文化園～JR野崎駅コース (約16.4km/約6時間35分)
  - C JR忍ヶ丘駅～緑の文化園～近鉄石切駅コース (約10.6km/約4時間25分)
  - D JR四条驛駅～緑の文化園～生駒ケーブル宝山寺駅コース (約11.8km/約4時間50分)
  - E JR四条驛駅～緑の文化園～近鉄白庭台駅コース (約12.2km/約4時間40分)
  - F JR野崎駅～緑の文化園～近鉄生駒駅コース (約14.4km/約5時間50分)

**凡例**

- おおさか環状自然歩道・生駒縦走歩道
- その他のコース
- 送電線
- ビューポイント
- 休憩所
- トイレ
- 主な三角点
- 主な山頂
- AED設置施設
- 生駒山系花屏風活動地 (府民協会で花木を植えています)
- 主なバス停

**小楠公墓所**  
 楠正行は、正平3年(1348)の四條畷の戦いで高師直と戦って討ち死に。ここに祀られている。正行の死後80年経って小楠と楠の木2本が植えられ、供養塔が作られた。この楠の木は大坂府指定天然記念物。現在の石碑は、大久保利直の建立。

**四條畷神社**  
 正平3年(1348)の四條畷の戦いで討ち死にされた楠正行を主神として、弟正時、従兄弟の和田賢秀等、戦死者24名を祀っている。明治22年(1889)、小楠公墓所と並行して境内に社殿が完成。別格官祭社となった。

**国中神社**  
 延長5年(927)の延喜式神名帳に載る式内社で、祭神は、天照大神・常立命・額田命・菅原道真の4神。本殿右手の境内に道真公ゆかりの牛で牛も祀られ、地元では「菅原道真公を祀る天神さん」として親しまれている。

**龍尾寺(りゅうび)**  
 四條畷市には数か所ある龍尾の伝説が残る。その龍の尾が落ちていたとされる場所に建てられた龍尾寺は、紅葉が美しく秋には参拝者でにぎわう。伝説が残る寺にふさわしく、本尊は12年に一度、龍の年にだけ開帳される。

**飯盛山からの眺望**  
 飯盛山からの眺望

**飯盛山城跡**  
 中世の城跡。314メートルの飯盛山に築かれた飯盛山城は、三好長慶が入った永禄3年(1560)から永禄6年に没するまでの約4年間、実質5歳内を支配するとともに、河内キリシタン布教の中心を占めた。高城の東側に残る高石垣は東側からの襲撃に備えたもので、当時の面影を残している。

**野崎観音(慈恩寺)**  
 野崎観音として名高い曹洞宗の寺。本尊の十一面観世音菩薩は行基作と伝わる。享保6年(1721)から始まった「野崎参り」は毎年5月初旬に行われ、期間中は多くの人で賑わう。本寺を舞台にした作品に、近松門左衛門の「女校地獄」、お茶久松の恋物語などがあつた。

**堂山古墳群(どうやまこふんぐん)**  
 総数8基、1号墳は木棺蓋の5世紀前半の円墳。2-7号墳は4-7世紀の横穴式石室を主体とする。三角板葺短冊形八角付帯をはじめ、鉄鍔や須恵器、陶器、勾玉など多数出土したが葬者は不明。墳丘に立つと、大坂平野の大部分を見渡すことができる。

**石六地蔵**  
 高さ148センチメートル、幅86センチメートルの舟型に平均身長46センチメートルの地蔵が六体半円形並べられている。六尊念仏の地蔵が先後供養のために建立したもので、「永禄十一年(1567)丁卯二月三日」の銘がある。北河内に現存する二基のうちの一基。

**四條驛市**  
 四條驛市

**住吉神社(石風呂)**  
 神社の創建は江戸初期と考えられ、祭神は海の神・住吉四神・淀川・天野川上流にあって、上下田原村民の氏神である。境内に安置されている石風呂は、天野川付近の土と山と伝えられ、鎌倉期の住吉神社の清浄(けいせい)、浄心用に使用されたもので、府史跡記念物である。

**千光寺跡跡築広場**  
 田原城主一族の菩提寺の千光寺跡から、中国産の最高級品の青磁磁器香炉や青白磁小壺、田原城主田原対馬守の守のキリシタン墓誌(天正9年1581年・日本書紀)が見つかる。これら以外の土器の跡や墓の遺構の一部、重要な部分を消防署田原分署の裏側に移し、常設展示している。

**田原城址**  
 周囲との比高差30mほどの小高い山の上に残る南北朝時代から戦国時代の城跡。三好長慶の飯盛山城の支城として田原氏が築いていた。堀切や土塁・石垣が残り、城の門や口、尖の石などの城跡利用が伝わる。

**四條畷市総合公園**  
 平成28年に人工芝運動場、平成29年に多目的広場を開設し供用開始。令和2年4月1日より、民間の管理運営による公園の管理運営が開始され、さまざまなスポーツに活用できる多目的広場の人工芝への改修、未整備地域の新たな活用を計画し、開園を拡大予定。

**飯盛山からの眺望**  
 飯盛山からの眺望

**飯盛山城跡**  
 中世の城跡。314メートルの飯盛山に築かれた飯盛山城は、三好長慶が入った永禄3年(1560)から永禄6年に没するまでの約4年間、実質5歳内を支配するとともに、河内キリシタン布教の中心を占めた。高城の東側に残る高石垣は東側からの襲撃に備えたもので、当時の面影を残している。

**野崎観音(慈恩寺)**  
 野崎観音として名高い曹洞宗の寺。本尊の十一面観世音菩薩は行基作と伝わる。享保6年(1721)から始まった「野崎参り」は毎年5月初旬に行われ、期間中は多くの人で賑わう。本寺を舞台にした作品に、近松門左衛門の「女校地獄」、お茶久松の恋物語などがあつた。

**堂山古墳群(どうやまこふんぐん)**  
 総数8基、1号墳は木棺蓋の5世紀前半の円墳。2-7号墳は4-7世紀の横穴式石室を主体とする。三角板葺短冊形八角付帯をはじめ、鉄鍔や須恵器、陶器、勾玉など多数出土したが葬者は不明。墳丘に立つと、大坂平野の大部分を見渡すことができる。

**石六地蔵**  
 高さ148センチメートル、幅86センチメートルの舟型に平均身長46センチメートルの地蔵が六体半円形並べられている。六尊念仏の地蔵が先後供養のために建立したもので、「永禄十一年(1567)丁卯二月三日」の銘がある。北河内に現存する二基のうちの一基。

**飯盛山からの眺望**  
 飯盛山からの眺望

**飯盛山城跡**  
 中世の城跡。314メートルの飯盛山に築かれた飯盛山城は、三好長慶が入った永禄3年(1560)から永禄6年に没するまでの約4年間、実質5歳内を支配するとともに、河内キリシタン布教の中心を占めた。高城の東側に残る高石垣は東側からの襲撃に備えたもので、当時の面影を残している。

**野崎観音(慈恩寺)**  
 野崎観音として名高い曹洞宗の寺。本尊の十一面観世音菩薩は行基作と伝わる。享保6年(1721)から始まった「野崎参り」は毎年5月初旬に行われ、期間中は多くの人で賑わう。本寺を舞台にした作品に、近松門左衛門の「女校地獄」、お茶久松の恋物語などがあつた。

**堂山古墳群(どうやまこふんぐん)**  
 総数8基、1号墳は木棺蓋の5世紀前半の円墳。2-7号墳は4-7世紀の横穴式石室を主体とする。三角板葺短冊形八角付帯をはじめ、鉄鍔や須恵器、陶器、勾玉など多数出土したが葬者は不明。墳丘に立つと、大坂平野の大部分を見渡すことができる。

**石六地蔵**  
 高さ148センチメートル、幅86センチメートルの舟型に平均身長46センチメートルの地蔵が六体半円形並べられている。六尊念仏の地蔵が先後供養のために建立したもので、「永禄十一年(1567)丁卯二月三日」の銘がある。北河内に現存する二基のうちの一基。

**飯盛山からの眺望**  
 飯盛山からの眺望

**飯盛山城跡**  
 中世の城跡。314メートルの飯盛山に築かれた飯盛山城は、三好長慶が入った永禄3年(1560)から永禄6年に没するまでの約4年間、実質5歳内を支配するとともに、河内キリシタン布教の中心を占めた。高城の東側に残る高石垣は東側からの襲撃に備えたもので、当時の面影を残している。

**野崎観音(慈恩寺)**  
 野崎観音として名高い曹洞宗の寺。本尊の十一面観世音菩薩は行基作と伝わる。享保6年(1721)から始まった「野崎参り」は毎年5月初旬に行われ、期間中は多くの人で賑わう。本寺を舞台にした作品に、近松門左衛門の「女校地獄」、お茶久松の恋物語などがあつた。

**堂山古墳群(どうやまこふんぐん)**  
 総数8基、1号墳は木棺蓋の5世紀前半の円墳。2-7号墳は4-7世紀の横穴式石室を主体とする。三角板葺短冊形八角付帯をはじめ、鉄鍔や須恵器、陶器、勾玉など多数出土したが葬者は不明。墳丘に立つと、大坂平野の大部分を見渡すことができる。

**石六地蔵**  
 高さ148センチメートル、幅86センチメートルの舟型に平均身長46センチメートルの地蔵が六体半円形並べられている。六尊念仏の地蔵が先後供養のために建立したもので、「永禄十一年(1567)丁卯二月三日」の銘がある。北河内に現存する二基のうちの一基。

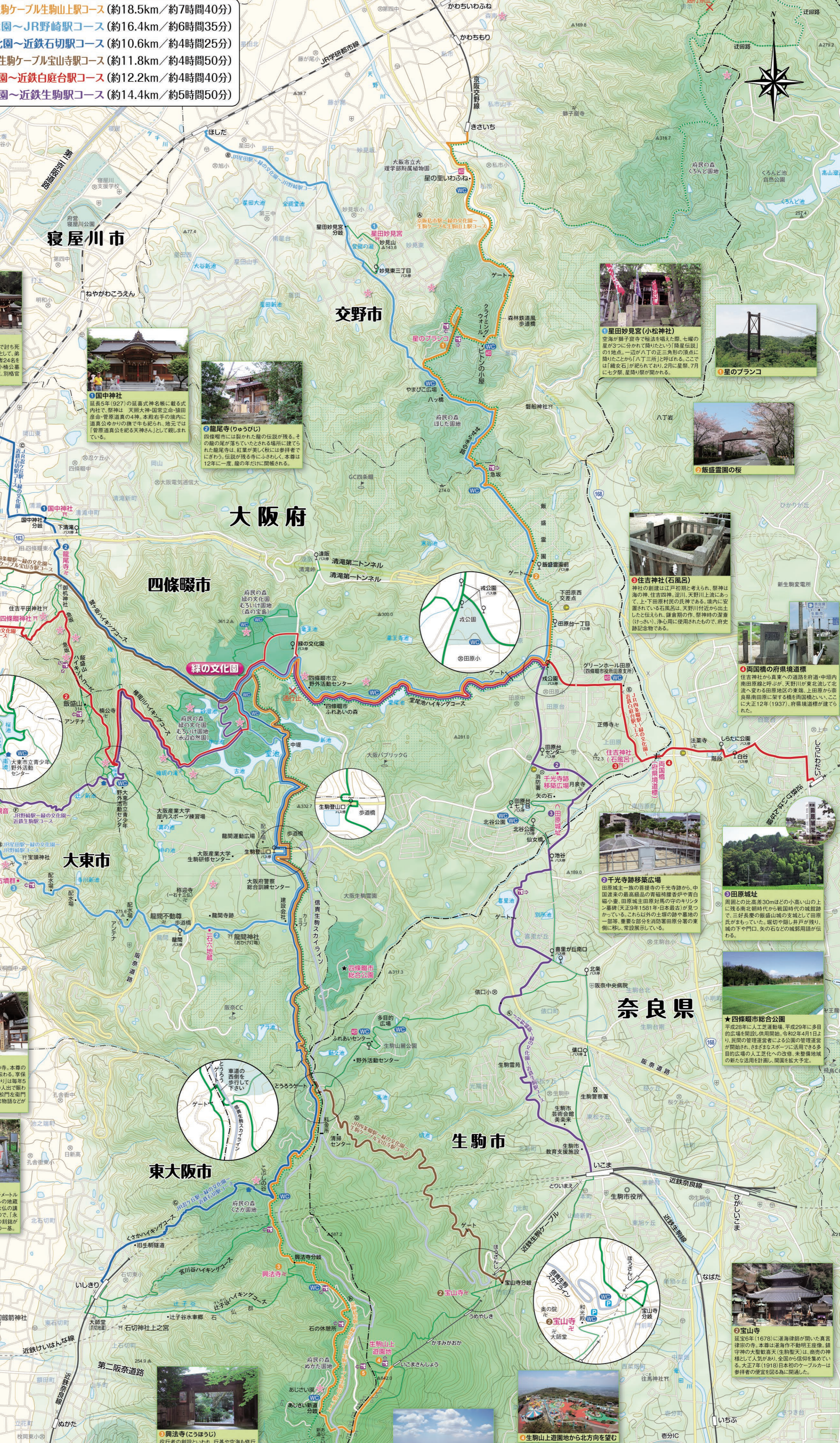
**飯盛山からの眺望**  
 飯盛山からの眺望

**飯盛山城跡**  
 中世の城跡。314メートルの飯盛山に築かれた飯盛山城は、三好長慶が入った永禄3年(1560)から永禄6年に没するまでの約4年間、実質5歳内を支配するとともに、河内キリシタン布教の中心を占めた。高城の東側に残る高石垣は東側からの襲撃に備えたもので、当時の面影を残している。

**野崎観音(慈恩寺)**  
 野崎観音として名高い曹洞宗の寺。本尊の十一面観世音菩薩は行基作と伝わる。享保6年(1721)から始まった「野崎参り」は毎年5月初旬に行われ、期間中は多くの人で賑わう。本寺を舞台にした作品に、近松門左衛門の「女校地獄」、お茶久松の恋物語などがあつた。

**堂山古墳群(どうやまこふんぐん)**  
 総数8基、1号墳は木棺蓋の5世紀前半の円墳。2-7号墳は4-7世紀の横穴式石室を主体とする。三角板葺短冊形八角付帯をはじめ、鉄鍔や須恵器、陶器、勾玉など多数出土したが葬者は不明。墳丘に立つと、大坂平野の大部分を見渡すことができる。

**石六地蔵**  
 高さ148センチメートル、幅86センチメートルの舟型に平均身長46センチメートルの地蔵が六体半円形並べられている。六尊念仏の地蔵が先後供養のために建立したもので、「永禄十一年(1567)丁卯二月三日」の銘がある。北河内に現存する二基のうちの一基。



**興法寺(こうほうじ)**  
 旅行者の前線といわれ、行基や空海も修行したと伝わる。本堂に祀られている十一面千手観音像は、楠材一本造りの彫刻で、行基の作。境内には、神武天皇が東征のついで、雨宿りをしたと伝わる「時雨塚」があり、5月にはスズランが可憐な花をつける。

**生駒山上遊園地から北方方向を望む**  
 生駒山上遊園地から北方方向を望む

**生駒山上から西方方向を望む**  
 生駒山上から西方方向を望む